



TOKUYA TIMES



http://ito-tokuya.com/tokuya

伊藤 とくや

Winter, 2017-18, vol.43

成長する旅行市場を活力に！ 観光振興・観光プロモーションをはじめとする諸課題について

43号発行についてのご挨拶

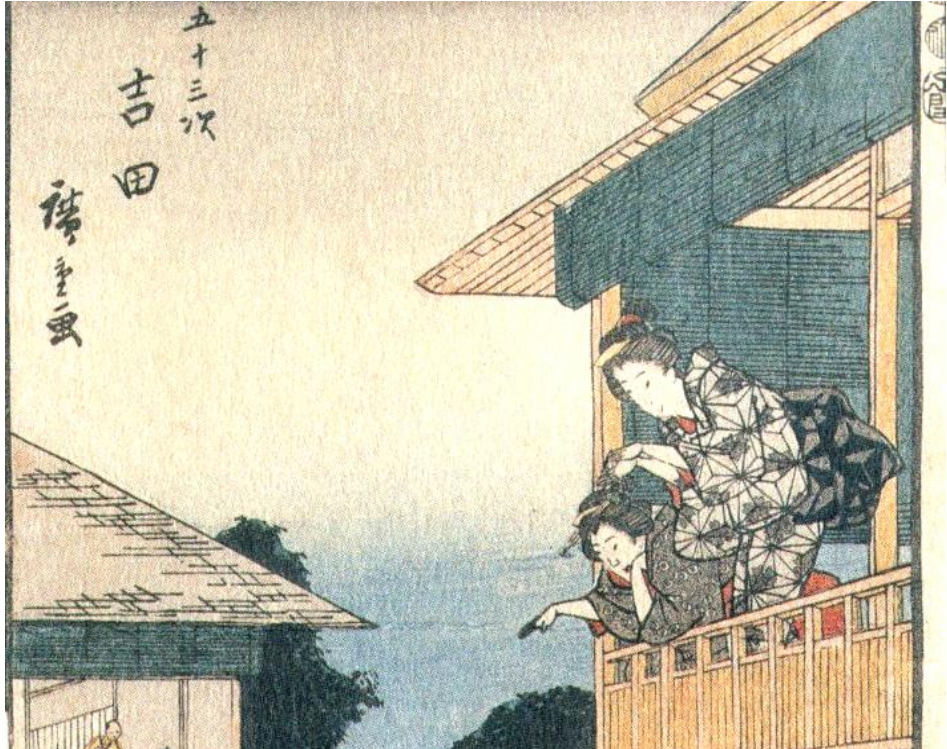
『平成 29 年版観光白書』の「観光地を取り巻く環境の変化」は、

- 観光市場は訪日観光の消費が伸びる一方で国内旅行の消費は横ばい。
- 訪日外国人旅行者への対応の一層の改善が課題。
- 旅行については、団体旅行の減少、列車利用の増加、SNSなどで映像を見たことがきっかけとなるなどの変化がおきている。
- 他方、国内旅行者が求めるニーズの上位は「温泉旅行」「自然観光」「グルメ」「歴史・文化観光」「テーマパーク」と変わらない状況と、わが国の現況をまとめています。

成長する旅行市場を活力に繋げる、今すぐ取り組むべき視点とは何か？

キーワードは・・・

『デスティネーション(Destination/観光目的)』



吉田通れば二階から招く、しかも鹿の子の振り袖が（広重）

本市における近年の観光の動向

- Q 魅力の維持と創出について**
A 地域資源、参加体験型のコンテンツ、見過ごしている未開発の資源、これらの多種多様な観光資源に磨きをかけ、的確に発信していくことで、本市の魅力維持と創出を図り、交流人口の増加に繋げていきたい。
- Q 交流について**
A 宿泊者数から見ると、順調に増加へと推移しており、今年も新たなホテルがオープンしたことから、さらなる上乗せが望める状況にある。
- Q 経済効果について**
A 1年間で宿泊者数は約4万人が増加しており、これに伴う直接消費だけでも約10億円増加したと見積もることができ、それ以外の外部経済も含め、観光は本市に大きな経済効果をもたらしている。
- Q 観るスポーツ、するスポーツといったスポーツツーリズム、ロケツーリズムなど「観光からツーリズムへ」という観光地を取り巻く環境変化について**
A 近年の観光は、名所旧跡などを「見ること」から、訪れた先ならではの「交流や体験」に重心が移りつつある。豊橋筆の職人を講師に招いての筆づくりや、のんほいパークでのセグウェイツアーなど、本市独自の体験要素を取り入れたコースは、大変好評をいただいている。
 ◆アンテナを高く観光コンベンション協会と共にさらなる誘客を図りたい。
- 伊藤とくや** ♥ のんほいパークでクラシックカークラブによるクラシックカー展示とカートを楽しむイベントを開催したが、本市独自の体験要素を広げる余地は広い。
 ♥ 国の示す魅力ある公共施設、インフラの大胆な開放も後押しできる。二川宿本陣にての結婚式や宿泊など、本気で進めていただきたい。

- Q 広域の視点も踏まえたDMO, DMCへの認識について**
A ■ DMOは「目的地をマーケティング/マネジメントする組織」、DMCは「目的地をマネジメントする会社」の略称。
 ■ また DMO は、「地域をプロモーションし、知ってもらい、来てもらう。」DMC は、「来てくださる人に対し、実際の手配や体験を提供する。」とすることが出来る。
 ■ 東三河DMO構想推進について期待はするが、心配するのはネットワーク。
 ■ 平成30年度以降に規約変更を行い事業実施する工程が示されており、様々な手続きに時間がかかりチャンスを逃がしかねない状況といえる。
- Q** 国は、平成29年度に講じようとする観光振興施策に「世界水準のDMOの形成・育成」を掲げており、待たなしの状況だが？
A 来年は、JRグループと旅行会社が愛知県を集中してPRし、全国からの送客により地域を活性化させる「あいちDC」が本番の年を迎える。手筒花火を前面に出し、ツアーの造成や新たな観光客の獲得に向け、取り組みを強化したい。
- Q 愛知DCに対する本市の取り組みについて** 伺う。
A 愛知デスティネーションキャンペーンは、本番となる来年度の前後3年間、平成29年度から平成31年度にかけて実施される。
 ◆今回のキャンペーンは、全国から来豊する多くの方に手筒花火を知っていただく絶好の機会。豊橋市としては、このタイミングを逃さず、続日本百名城に選ばれた吉田城で手筒花火の放揚を集中的に行うことで、しっかりと誘客につなげたい。
- 伊藤とくや** プレ愛知DCで本市は手筒花火をご覧いただく機会も設けた。
 続日本百名城に選ばれた吉田城で手筒花火の放揚を集中的に行うとの事。
 この機会を活かし、吉田城の整備、少なくとも点検による安全対策を。特に石垣の保全、成長しすぎた本丸石垣の上の樹木の適切な伐採は不可欠です。



シティプロモーションからみた観光振興

シティプロモーション事業のコンテンツ「手筒花火」「路面電車」「のんまいパーク」「とよはし食文化」と観光は密接な関係、お互いが高めあう関係ではないか？

Q シティプロモーションと観光との相乗について伺う。

A いわば「売り込み」と「呼び込み」という、それぞれの成果が相乗効果をもたらす互いに高めあう、不可分の関係にある。相乗は極めて重要なものであり、今後もしっかり連携して取り組んで行く。

Q 「ええじゃないか とよはし映画祭」ロケ地を活かした観光振興について伺う。

A 第2回目「ええじゃないか とよはし映画祭」は来年3月2日から4日にかけて開催される。ロケ実績は豊橋を多様に放映、多大な経済効果をもたらしている。

Q 第2回ええじゃないか とよはし映画祭の取り組みと進捗、及び観光振興につながる方策について伺う。

A 市外の若い世代をターゲットに全ての作品にゲストをお招きした映画祭を開催する予定、今回は「作る」というコンセプトを盛り込みたい。

◆ この映画祭でしか聞くことのできない「作る」をテーマにしたトークショーやカンファレンスの充実、プレ企画として子供を対象とした映像制作のワークショップの開催、まちなかの飲食店や多くの映画祭ボランティアとの連携・協力を深め「共に作る映画祭」にしていきたい。

◆ 映画祭をまちなかへの回遊につなげるために、上映方法や上映時間を見直す、映画ロケ地マップの配布を行う、映画祭からまちなか回遊、さらにはロケ地巡りへと誘導することで、「映画のまち豊橋」というイメージを発信したい。

伊藤とくや ♥ 29年度観光白書は「持続可能な賑わいを有する観光地づくりに向けて」と題したテーマを主軸に、将来に向けた課題提起や進めるべき取り組みを提示しており、それは「国内観光地を取り巻く環境の変化」です。
♥ 今まで本市の観光振興にご尽力されたが既に亡くなられた諸先輩はじめ、近く引退される方も多く聞きますが、観光産業を革新し、国際競争力を高め、基幹産業にせねばなりません。迅速かつ適切な対応を期待します。😊

手筒花火の観光効果について

Q 有力な観光目的となる手筒花火の観光効果について伺う。

A 手筒花火は、本市を訪れる目的・デスティネーションとなる優れた観光コンテンツであると認識している。

◆ 現在、豊橋市は、首都圏での観光プロモーションとして東京の豊洲・横浜の赤レンガ倉庫で、また本市を訪れる国内外のツアー客を対象に吉田城にて手筒花火を放揚している。

◆ 来年はJ Rグループと旅行会社が愛知県を集中してPRし全国からの送客により地域を活性化させる「あいちDC」が本番の年を迎える。

◆ 本市としては、さらに手筒花火を前面に出し、ツアーの造成や新たな観光客の獲得に向け、取り組みを強化していきたい。

Q 炎の祭典はじめ、手筒花火による更なる観光振興について伺う。

A 今年で22回目を迎えた炎の祭典は、お客様や旅行会社の方からの意見を踏まえて、イベントとしての質を高めることが、手筒花火の魅力的なプロモーションに繋がるものと考えている。

◆ 手筒花火は夜間にしか見て頂くことができないため、昼間本市を訪れたお客様にも、手筒花火の歴史や伝統、作り手のこだわりも含めた魅力を伝える仕組みも必要であり、その方策を考えていきたいと考えている。

伊藤とくや 手筒花火が東三河の人々の心をとらえ続け、今なお手筒衆が生まれ続けている理由については、手筒が「揚げる楽しみを持つ、揚げる人が主役の煙火」だからといわれている。

♥ また、花火師監督の下で筒の準備から火薬仕込みまで、すべてを自らの手で行う特異な伝統は、手筒衆の間に強い結束と団結心を生み出し、コミュニティの絆づくりを形成している。

伊藤とくや 手筒花火のために故郷へ帰る、手筒花火のために他所のまちから参加するという話はよく聞くとこ。

伊藤とくや 手筒花火もとめて、他町、他市、他県、他国から集まるひとの縁を結び、絆をつくる橋渡しをすることこそが、「手筒ツーリズム」!

伊藤とくや 「手筒ツーリズム」は国の目指す『観光資源の魅力を活かし、「地方創生」の礎に』に合致すると私は思います。

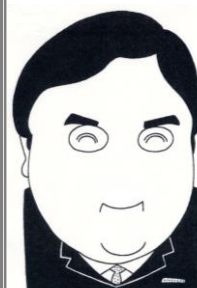


あとがき

♥「手筒花火」を具体的な観光目的にするには、手筒花火を愛しまちおこしを志す市民を中心に、行政、観光協会、事業者などが手筒花火でまちづくり、官民をあげて連携は必須であると考えます。お城と火薬は不可分の関係であることから、理想は入道櫓(にゅうどうやぐら)を整備して手筒会館にするといったところだが、とりあえずは鐵槽(くろがねやぐら)に手筒会館を設置する、さもないと城中でもある市役所か豊橋美術館に手筒についてのしっかりした展示を急いで考えていただきたい。

♥また、手筒花火の特色のひとつは、揚げ手が筒を手づくりするという点です。

♥竹の伐り出しから仕上げまで、全ての技術を年長者から年少者への口伝で継承されるかたちでつくる手筒花火は、東三河のものづくり観光ともいえ、愛知DCとも相乗します



発行

伊藤とくや事務所

豊橋市松葉町 3-68

FAX : 0532-56-5521

TEL : 0532-53-4556

e-mail : bbito@me.com

携帯 : 090-3855-9696